

平成 30 年度町政懇談会記録（要旨）

開催日：平成 30 年 7 月 14 日（土）

開式：午後 4 時 00 分 閉式：午後 5 時 00 分

場所：笹尾西 2 丁目集会所

参加者：男 8 人、女 10 人、計 18 人

町職員：町長、副町長、建設部長、総務部長、政策課員

- ・開会 16：00
- ・町長報告 16：00～16：30
- ・懇談 16：30～17：00
- ・閉会 17：00

○懇談

男性 1 今回の開発は具体的に何をメインに考えていましたか。

町長 戸建住宅・中学校の移転・商業施設等を考えていました。例えば、高齢者が歩いて生活でき、不便しないような複合施設を建設しようなどを検討していました。病院やスーパー等も完備する予定をし、話を進めていました。また、東員町の複合施設（東員町の特産品を作るエリア、保健福祉センター、市民活動センター、図書館等）も移転する予定をしていました。

男性 1 全国での成功例はご覧になりましたか。

町長 全国での農振農用地を開発する事例はなく、東員町が初めてになります。農林水産省にご理解をしていただき、ようやく事業化ができるころまではこぎつけましたが、三重県の都市計画マスタープランが改定されるので、それまでに実行しなければならなかったが、時間が足らなかったため断念せざるをえなかったのが現状です。

男性 1 法律を変える努力はしてもらえばいいんじゃないのか。

町長 常に我々は法律を変える努力はしています。地方 6 団体（知事会、市長会、町村会等）からも常に要望をあげていますし、地方創生と叫んでいるなら、その地方に

あったやり方でやるべきだと常に要望をあげています。それだけやっても国は目を開いてくれないのが現状です。しかし、今回は目を開いてくれたが、時間が足らなかったため、開発が出来ませんでした。

男性 2 農振農用地だから変わらなかったのはわかりますが、何が足らなかったのか教えて欲しいです。

町長 積水ハウス(株)を信用しすぎたことも原因のひとつだと思います。また、東員町と積水ハウス(株)の間の買収単価に差があったことも原因だと思います。そこは反省するところだと思います。

男性 3 今回の開発の土地は交通の便が非常に良い土地だったと思いますが、なぜ撤退したのか気になります。雨の心配などがあるからですか。

町長 1000年に1度の大雨でも開発地は問題ありません。

男性 3 今回の開発で町長に考えを専攻させ、議会でどれだけ話をしたか。町民にどれだけ伝えたかが大事だと私は思います。あそこの土地を何かの形で生かしていこうと思うならば、もう一回真剣に考えて、町長の思いを議会に報告し、町民と徹底的な論議を繰り返して、取り組んでいただきたいと思います。今後も諦めずに違う形で検討していただきたい。

町長 おっしゃられるとおりです。ありがとうございます。

男性 4 この計画がダメになったことでのデメリットを教えてください。三重県と東員町の考え方に少し開きがあるように感じましたが、考えは一致されているのですか。

町長 1つは、中学校の移転が出来なくなってしまったことです。国道・県道を通る大社や長深、中上は通学路に大きな危険があるのでなんとか真ん中にもっていきかけたです。2つ目は北勢線の利用者数の増加ができなくなったことです。利用者数が少ないため、東員町から北勢線に補助金を出しています。今回の開発が成功していれば、名古屋で仕事をしている人が移住し、北勢線を利用して桑名まで出る人が増えたため、東員町からの支出を減らすことができると考えていました。

町長 また、徳島県上勝町で葉っぱビジネスをしている高齢者がたくさんいます。その

葉っぱビジネスで得たお金は、上勝町で還元されていないのが現状です。なぜかという、お金を使う施設がないからです。東員町でそれはしたくないと私は考えています。そのために、東員町の人にお店を出して売ってもらったり、今動いている東員町の特産品を売ったりして東員町が発展する仕組みを検討していました。

男性 1 空き家の対策について町はもっとなにかしてくれないのか。

町長 住んでいない本当の空き家は1%未満です。問題なのは、単身赴任をされているが、固定資産税を払っていることです。そうすると東員町としては何も出来なくなります。その対策を現在検討している途中であります。